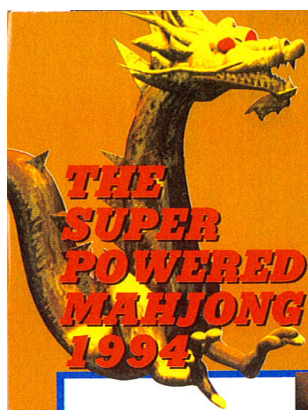




●競技団体選手のリーチにも
一歩も引かずに渡り合って、
見事に予選1位・萩原選手。

●5回戦80・2Pの大トップで並々
ならぬ闘志をみせた安藤選手。



第6回
麻雀最強戦
本選大会
1995
1.16

百
戦練磨の強者
たちが集った
最強戦予選！
怒濤の勢い、萩原・飯田
鬼神の眼光、安藤満
驚異の粘り、倉田てつを
意地の浦田。坂口、秋本
そして来賀の熱闘——！！

- | | | |
|----|--------|---------|
| 1 | 萩原聖人 | 130.1P |
| 2 | 飯田譲治 | 105.1P |
| 3 | 安藤満 | 90.8P |
| 4 | 倉田てつを | 73.6P |
| 5 | 浦田和子 | 70.7P |
| 6 | 坂口和夫 | 57.9P |
| 7 | 来賀友志 | 47.6P |
| 8 | 秋本鉄次 | 46.7P |
| 9 | 福島治 | 15.1P |
| 10 | 忍田幸夫 | -3.3P |
| 11 | 鎌田直明 | -34.4P |
| 12 | 原田正史 | -52.2P |
| 13 | おーたみのる | -97.3P |
| 14 | 深居利基 | -131.3P |
| 15 | 甲良幹二郎 | -149.9P |
| 16 | 村野守美 | -169.2P |

予選終了時の成績

●南場に入ると驚異の粘りを見せた倉田選手は5回戦でトップを捲り決勝進出！！



●予選4回戦終了時点で91.7Pで決勝進出当確だった来賀選手だったが、倉田選手の大捲りにあい、ラス転落／無念！！



●5回戦で3着に沈んだ浦田選手。対称的にトップの飯田選手は決勝へ…。

決戦
番手の浦田は僅差で降着。決勝に進出したのは、トップを奪った4人であった——！！

●「このガンガンいくよ」と宣言して4・1回戦トップの飯田選手。



●本でいち先生直筆のハチマキをしめてが5回戦、わずかに及ばず。



●出入りの激しい麻雀で、激闘の跡をうかがわせた福島選手。



●実力を発揮できずに終わった守野選手。
●大会のふん困りに呑まれた感のあった甲良選手。



●安定した戦いぶりて上位に食い込んだ秋本選手。



●果敢にリーチ攻勢に出た忍田選手だが、今ひとつ抜け出せず。



●前半の健闘も及ばず、敗退のおーた選手。



●2回戦で飛び出した原田選手の国士／振ったのは深居選手。



●3回戦以降でトップを取り切れず、下位に低迷した鎌田選手。

役者は出さうい、舞台はこと
のつた。そして最高のステージ
が、見るものすべてに感動と興
奮を与えてくれた。
高い技量を持った人々が集ま
って、心底真剣に勝負をすれば
素晴らしい闘いの場を創り出す
ことができる。それは他のスポ
ーツやゲームの世界と同じよう
に、もちろん麻雀にも当てはま
ることなのだ。
この日は飯田と安藤と萩原と
倉田の、意地と闘志とが渾然一
体となった名勝負が繰り広げら
れた。打つ人見る人が共に息を
呑んだその緊迫感を、拙い文章
でお伝えするのは至難の業だと
痛感している。
今回からシステムを改め、よ
りオープンな大会となった第6
回「麻雀最強戦」もいよいよフ
ィナル。その当初から大会を
見守り、参加もした私には、
予選の様々なシーンがよみがっ
くる。
「竹書房新人王戦」を勝ち残っ
た若武者・鎌田直明と原田正史
は野望に燃えていた。この大
会は「麻雀最強戦」史上最強とい
われるチャレンジャー・深居利
基と坂口和夫はどんな見せ場を
作ってくれるのだろうか。
本誌「別冊麻雀」の代表
といえるのが、この大会だ。
「ブレイク」よそいきの気持ちに
なったのがますますかたかなあ
とは二人の井だが、アマチュ
アとしてはベストを尽くしての
結果。そこいられただけで充
分強さの証明になっている。ど
うぞ胸を張ってください。
かたやジャンゴロ兄（？）とも
いわれ、アマチュアは一線を
画す来賀はトータル7位、序盤
の劣勢を挽回して、4回戦終了
時にはトップに立っていた。こ
の成績は彼には大いに不満の残
るところだろう。漫画家大会出
場者の皆さんにすまない気持ち
だ」というのは、来賀の偽らざ
る心境だったはず。
惜しいといえば「最強戦選抜
大会」のチャンピオン・浦田和
子である。もうひとアガリだっ
たわねえ」と努めて淡々と振り
返るが、トータル5着の成績は
わずかに2・9ポイント差での
予選敗退。いかにもアツすぎる
ではないか。
福島治と忍田幸夫の「最高位
戦」コンビは9ポイントを挟ん
で9位と10位。正直いって私に
は不満な結果である。彼らの実
力と立場からすれば、必ず優勝
に絡んでなければならぬ日は
ずんだ。後述するが、この日
の安藤の麻雀に対する感動的な
姿勢を見た私としては、二人

●南波捲
この日は飯田と安藤と萩原と
倉田の、意地と闘志とが渾然一
体となった名勝負が繰り広げら
れた。打つ人見る人が共に息を
呑んだその緊迫感を、拙い文章
でお伝えするのは至難の業だと
痛感している。
今回からシステムを改め、よ
りオープンな大会となった第6
回「麻雀最強戦」もいよいよフ
ィナル。その当初から大会を
見守り、参加もした私には、
予選の様々なシーンがよみがっ
くる。
「竹書房新人王戦」を勝ち残っ
た若武者・鎌田直明と原田正史
は野望に燃えていた。この大
会は「麻雀最強戦」史上最強とい
われるチャレンジャー・深居利
基と坂口和夫はどんな見せ場を
作ってくれるのだろうか。
本誌「別冊麻雀」の代表
といえるのが、この大会だ。